

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年9月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P2)
 - 1 水田ゴボウの先進地視察を実施
 - 2 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催
 - 3 9月期子牛せり市が開催

- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P3～5)
 - 1 天敵利用研修会を開催
 - 2 みかん収穫体験ワークショップ(体験型イベント)を実施
 - 3 綾オーガニックスクール定例会の開催
 - 4 青年等就農計画の作成支援
 - 5 水田大規模経営体の経営計画に関する支援
 - 6 JAみやざき綾町地区本部環境制御技術講習会が開催
 - 7 新木地区基盤整備事業推進委員会を開催
 - 8 キャベツほ場で散水器具を設置
 - 9 上木原地区一斉除草を実施(きゅうりのMYSV対策)
 - 10 JA宮崎中央地区本部国富支店菊部会目揃え会が開催
 - 11 JA宮崎中央地区本部洋ラン部会現地検討会が開催

 - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P6～8)
 - 1 大久保小学校お茶育教室
 - 2 モーモー教室が開催
 - 3 綾オーガニックスクールで水稻栽培研修
 - 4 農業経営者サポート事業専門家相談会を開催
 - 5 家の光大会「お米・米粉料理・手づくり作品コンクール」の開催
 - 6 新規就農予定者と農業委員との顔合わせ
 - 7 ねぎ現地検討会の実施
 - 8 中古未利用の散水器具のマッチングに係る打ち合わせを実施
 - 9 綾町施設野菜病害虫対策協議会 MYSV対策マニュアル検討会が開催
 - 10 田野支店胡瓜部会 病害虫防除講習会が開催
 - 11 国富町きゅうり黄化えそ病対策講習会が開催
 - 12 水の郷綾施設有機きゅうり研究会M-GAP勉強会が開催
 - 13 中部地区果樹技術員会展示ほ調査及び検討会を実施

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 水田ゴボウの先進地視察を実施

11日、宮崎市内の生産者6名と関係機関3名で水田裏作に係る新規品目として、JAみやざきはまゆう地区本部管轄の水田ゴボウほ場を視察しました。宮崎市有田地区では、早期水稻の裏作として水田ゴボウを作付けすることを検討しておりましたが、実際の栽培の様子は見たことがない生産者が多かったことから、参加した生産者からは「初めてゴボウの作付け状況を見てとても勉強になった」との意見がありました。



【ほ場で質問する生産者】

2 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催

16日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による10月期子牛せり市に向けた9月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、宮崎中央地区本部の竹ノ内寛綱氏の「ありあ」号（孔明桜産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長から発育、肋張り、均称、前中後軀の移行のきれいさ、骨締まりが評価されていました。



【優等1席「ありあ」号】

3 9月期子牛せり市が開催

10日、11日、宮崎中央家畜市場で開催され、合計592頭（雌：262頭、去勢：330頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、普及センターから「WCSの収穫時期」「ビタミン、ミネラルの補給」について講演を行いました。

なお、今回子牛平均価格は、雌645千円（前回比24千円高）、去勢696千円（前回比5千円安）、総平均673千円（前回比3千円高）という結果になりました。



【研修会に参加する生産者】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

【総1・中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保育成】

1 天敵利用研修会を開催

5日、宮崎市SAP会議佐土原支部と共催で、佐土原総合支所の研修室で開催しました。新規就農者、青年農業者が計21名出席し、普及センターから天敵利用の基礎講義を行いました。その後、中部管内で天敵を活用している先輩農業者2名と参加者で意見交換を行い、1時間という短い時間ではありましたが、活発に質問が行われ、先輩農業者からは惜しみなく技術や考えを教えてくださいました。今回の研修の内容が活かされ、経営改善に繋がることが期待されます。



【天敵利用研修会】

2 みかん収穫体験ワークショップ(体験型イベント)を実施

6～24日、みかんの収穫体験を行い、南九州大学都城キャンパスの学生16名が参加しました。

開催にあたっては、生産者や宮農振興協議会果樹部会員と作業内容の説明などの役割分担を含め打合せを行い、参加する学生向けへの事前説明も行いました。

このワークショップは、収穫体験をした学生が果樹経営に興味を持ち将来的に就農し、生産者と学生のマッチングが成立することを期待し行っています。参加した学生は、暑い中、活き活きと作業しており、みかんを収穫する喜びを感じていただけたようでした。

今後も生産者や関係機関と連携し、就農促進へ向けた支援をしていきます。



【ミカン収穫体験】

3 綾オーガニックスクール定例会の開催

25日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークス事務所に於いて、企画運営委員会定例会が開催され、関係者8名が出席しました。定例会では、農業実習や座学の進捗状況の確認と10月以降の取組内容及び令和8年度学生募集要項等の検討を行いました。

今後も関係機関と連携して、支援を続けていきます。

4 青年等就農計画の作成支援

9月は2名の就農計画作成支援、4名の就農計画検討会を実施しました。それぞれ就農予定者との相談をとおして、中長期的な視点で計画を考えるように促しました。

【総2・集落モデル育成による持続可能な水田営農の展開】

5 水田大規模経営体の経営計画に関する支援

18日、宮崎市内で、水田大規模経営者1名に対し、総合農試専門技術センターと連携して今後の経営方針に関する支援を行いました。当日は将来の品目構成の意向確認や事前調査に基づく年間作業計画の提供を行い意見交換を行いました。経営者からは、記録記帳の重要性が理解できたとの意見が聞かれました。今後も経営者とともに課題の整理を進めながら支援していきます。

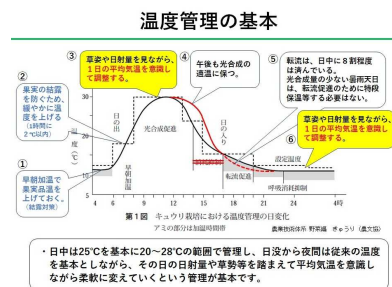
【総3・施設園芸版スマート農業による高収益園芸産地の育成】

6 JAみやざき綾町地区本部環境制御技術講習会が開催

30日、JAみやざき綾町地区本部において開催し、生産者7名、JA指導員2名が参加しました。この講習会は、県のDプロに参加している生産者やDプロに興味のある生産者を対象に行ったもので、普及センターからデータを活用した栽培管理について講習を行いました。

講習の中では、時間帯毎の温度管理の基本的な考え方を確認した後、日照量や生育状況を踏まえて平均気温をもとに管理する手法について説明を行うとともに、1作を乗り越えられる根を作っていくためには秋口の着果量を適正に保つ必要があること等を説明しました。

引き続き、JA指導員と連携し、時期や天候に合わせて定期的に研修を継続し収量向上を支援してまいります。



【温度管理の基礎の確認】

【総4・マーケットインに基づく新たな土地利用型営農の展開】

7 新木地区基盤整備事業推進委員会を開催

1日、新木地区自治公民館で基盤整備事業の推進委員会が開催されました。当該地区は令和10年度以降に基盤整備事業を実施する予定であり、今回は地権者の同意状況、農地集積及び集約の計画、営農計画の内容について協議しました。普及センターからは営農計画に係る水田裏作品目の作付体系を説明しました。今後は次年度以降の実証に向けた支援を実施していきます。



【推進委員会】

8 キャベツほ場で散水器具を設置

18日、宮崎市のキャベツ生産者のほ場にプラスチック製スプリンクラーを設置しました。プラスチック製スプリンクラーは金属製のスプリンクラーの約4分の1のコストで導入できることから、事業完了地区のほ場でも安価な導入が見込まれます。プラスチック製スプリンクラーの貸し出しは、普及センターとして初めての試みであることから、今後は散水幅や耐久性について確認していきます。



【プラスチック製スプリンクラー】

【専4・ICM技術のフル活用による持続可能な野菜産地の育成】

9 上木原地区一斉除草を実施(きゅうりのMYSV対策)

5日、宮崎市清武町上木原地区において、きゅうり生産者15名、関係機関3名が参加して地域一斉除草が実施されました。

上木原地区においては、きゅうり生産者集団「やっちみろ会」が主催して毎年9月に地域一斉除草を実施しており、地域内のミナミキイロアザミウマ抑制によるMYSV対策に取り組んでいます。今年は6年目となり、地域の行事として定着しています。

普及センターからMYSV対策の資料を配付し、再度、防除対策の徹底について啓発を行いました。



【一斉除草】

【専6・生産技術向上による花き産地の維持】

10 JA宮崎中央地区本部国富支店菊部会目揃え会が開催

10日、国富町三名にある集出荷場において開催され、生産者13名、関係機関6名が参加しました。

生産者が出荷した菊の品質を全員分確認し、切り前の確認を行いました。生産者は真剣にキクの品質を確認していました。

JAから9月彼岸の販売動向の予想や他県産地の動きやJA単独事業の説明があった後に、普及センターから高温対策試験の中間試験結果の報告とICMチェックリスト実施の啓発を行いました。

今後もこのような機会をとらえて、高温対策や農薬に頼らない病虫害対策の実践を支援していきます。



【目揃え会】

11 JA宮崎中央地区本部洋ラン部会現地検討会が開催

18日、宮崎市の現地で開催され、生産者13名、関係機関3名が参加しました。

会長挨拶の後、市況の報告、今後の部会活動等について協議しました。その後現地検討会が行われ、活発に意見交換が行われました。また、炭酸ガスを施用しているハウスの開花の進みが早いことに驚き、多くの生産者が炭酸ガス施用効果に興味を示されていました。今後ともコショウランにおける炭酸ガスの施用効果の確認試験を現地ほ場で普及センター、JAと連携し行っていきます。



【現地検討会】

宮崎県農林水産業ナビ

～ひなたMAFIN～

ひなたマフィン

検索

情報満載！ぜひアクセスを！⇒



2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 大久保小学校お茶育教室

2日、宮崎市大久保小学校にて宮崎市・清武町茶業振興会によるお茶育教室が開催されました。お茶育教室では清武町のお茶農家が講師を務め、主体となって授業を行いました。宮崎市役所やJAみやざきと協力しながら、児童たちにお茶の種類や淹れ方を体験してもらい、お茶の魅力や地元茶産業の重要性について学ぶ貴重な機会となりました。今後も地域の皆様と連携し、お茶の普及および地元産業の活性化を図れるよう支援してまいります。



【お茶育教室】

2 モーモー教室が開催

26日、宮崎市の保育園にて、宮崎中央酪農部会によるモーモー教室が開催されました。酪農家の石川会長が講師を務め、園児約30名に対して、農場のことや牛乳・食肉の利用について、写真や動画を用いて分かりやすく説明しました。その後の体験会では、牛乳を使ったアイスクリームを生産者やインターンの農大生が園児と一緒に製作し、模型牛「ミル子」を用いた乳しぼり体験も行われました。園児たちは体験を通して楽しんでおり、酪農や乳製品への理解を深めていました。牛乳・乳製品および酪農について理解を深める活動を今後も支援してまいります。



【モーモー教室】

3 綾オーガニックスクールで水稻栽培研修

9日、綾町で、綾オーガニックスクールの研修生6名に対し、有機栽培の水稻調査の研修を行いました。研修では、草丈や穂数などの生育調査を実際に行い、また病害虫の診断や被害の特徴などについて説明しました。研修生からは初めてみるいもち病について質問がでたりするなど興味深く取り組んでいました。今後も、坪刈りや収量調査を行うなどして技術向上を図っていきます。

4 農業経営者サポート事業専門家相談会を開催

29日、農業経営者サポート事業を活用し、経営管理に関する個別相談会を開催しました。

税理士から決算書を基に、今後のシミュレーションパターンを具体的に提示していただいたことで、課題が整理されるとともに、必要な経営管理の手順等が明確となり、相談者の課題解決につながりました。



【農業経営者サポート事業】

5 家の光大会「お米・米粉料理・手づくり作品コンクール」の開催

18日、J A・AZM大ホールで、令和7年度JAみやざき宮崎中央地区本部家の光大会に審査員として出席しました。

「お米・米粉料理・手づくり作品」コンクール4部門には、38作品の出展があり、各部門ごとに他の審査員2名とともに審査を行いました。各部門の最優秀賞・優秀賞・アイデア賞の受賞作品は、県大会に地区代表として出展される予定です。

本大会は今後もコンクール作品制作等を通して女性農業者の生きがいくくり・仲間づくりにつながるものと期待されます。



【コンクール】

6 新規就農予定者と農業委員との顔合わせ

1日、宮崎市役所第4庁舎において、宮崎市農業委員と新規就農予定者の顔合わせが実施されました。市内での就農を希望している新規就農予定者3名から自己紹介があった後、各地域の農業委員とともに個別に就農候補地などの相談を受け、就農準備に向けた支援を行いました。



【新規就農予定者顔合わせ】

7 ねぎ現地検討会の実施

19日、綾町のねぎ生産者と現地検討会が行われ、2ほ場の現地を確認しました。ネギハモグリバエの発生がありましたが、その他の病害虫の発生は少ない状態でした。有機農業でも使用できるBT剤の有効な使用方法や今後の土寄せの作業のポイント、かん水の重要性について説明を行いながら生育状況の確認を行いました。

今後も引き続き巡回指導等の支援を続けていきます。



【ねぎの生育状況確認】

8 中古未利用の散水器具のマッチングに係る打ち合わせを実施

普及センターでは、中古未利用の散水器具を有効活用するために、散水器具を若手生産者に承継(マッチング)する体制について検討しております。

18日、八重地区公民館にて、関係者4名で、散水器具を保管している八重地区土地改良区の理事長へ体制のイメージについて提案を行いました。理事長からは、「散水器具が活用されていないことがもったいないと思っていたためマッチングには賛成。」との意見がありました。今後は他の理事への説明や、マッチングに係るルール策定の支援を実施していきます。



【役員への説明】

9 綾町施設野菜病害虫対策協議会 MYSV対策マニュアル検討会が開催

8日、綾町で綾町施設野菜病害虫対策協議会関係者による、MYSV対策マニュアル検討会が行われました。JAみやざき綾町地区本部が作成したマニュアルについて、内容確認及び意見交換を行いました。普及センターからは、被害低減のため今作から毎月作成を始めているMYSV対策チラシ(9月号)について説明しました。

今後とも地域全体で、MYSVの対策に必要な知識を理解し、発生数の抑制及び発生時の速やかな対処につなげていきます。



【マニュアルの周知方法の検討】

10 田野支店胡瓜部会 病虫害防除講習会が開催

11日、田野町で生産者50名程、JAみやざき田野支店4名、総合農業試験場3名、中部農業改良普及センター2名が参加し、講習会が行われました。

はじめに総合農業試験場の相見主任研究員からきゅうりの栽培試験の成果について説明があり、その後黒木副場長から定植前後の栽培管理と病虫害対策について講演がありました。

普及センターは、今回の講習会開催にあたり企画調整を行い実施に至りました。その結果、質疑応答の時間には多くの質問があり、生産者と関係機関を含め皆の知識の深まりが感じられました。



【講習会の様子】

11 国富町きゅうり黄化えそ病対策講習会が開催

9日、国富町役場において、生産者や関係者約50名が参加し、講習会が開催されました。

この講習会は、昨年度から今年度にかけてきゅうり黄化えそ病が多発したことを受けて、町内全生産者が皆で対策を基礎から見直し、共通理解のもと被害低減に取り組む必要性を認識し国富町が開催したものです。

冒頭、普及センターから地域ぐるみで対策を行うことの重要性を説明した後、県総合農業試験場の黒木副場長からICMの考え方に基づく防除対策について講演が行われました。

講演の中では、適正施肥や雑草対策、害虫の生態に合わせた薬剤防除、天敵や微生物の活用、薬剤散布作業のポイントなど、多岐にわたる説明がありましたが、参加者は皆講演終了まで熱心に聞き入り、講演後は多数の質問が上がりました。引き続き、被害低減に向けて支援してまいります。



【黄化えそ病対策講習会】

12 水の郷綾施設有機きゅうり研究会M-GAP勉強会が開催

26日、JAみやざき綾町地区本部で開催し、生産者3名、関係者5名が参加しました。

水の郷綾施設有機きゅうり研究会は、今年3月にひなたGAPの団体認証を取得し、現在は県の新たな制度であるMIYAZAKI-GAP(M-GAP)の認証取得に向けて勉強会を続けています。

今回は、M-GAPで新たにどのような取組が迫必要になったかについて、県の農業流通ブランド課の担当者を招いて説明を聞きました。

説明の後には、農業大学校のインターン生5名を交えて若者達から見たGAPの必要性等について意見交換を行った結果、GAPに取り組む価値について理解が深まったようでした。普及センターとしては、引き続き、無理なく続く体制づくりを意識しながら勉強会を支援してまいります。



【M-GAPについて意見交換】

13 中部地区果樹技術員会展示ほ調査及び検討会を実施

11日、宮崎市において、関係機関が参加し、極早生温州みかんの日焼け果対策の展示ほ調査及び検討を行いました。近年、高温等の影響により、果樹の日焼け果は重要な課題になっています。展示ほでは、極早生温州みかんの着果及び摘果方法の違いによる日焼け果抑制効果を調査しており、収穫直前の日焼け果発生状況等を確認しました。詳細についてはとりまとめ中ですが、日焼けしやすい樹の表面を摘果した場合の方が日焼け果の割合が低い印象でした。今回の結果を基に、果実品質への影響を含め、日焼け果対策技術として、検討を行います。



【日焼け果調査】